

令和4年度決算

普通会計 決算認定特別委員会 説明資料

教育委員会

目 次

I	令和4年度教育委員会主要施策の成果の概要	3
II	主要事業の内容及び成果	9
III	歳入歳出決算額	20
1	一般会計決算額	20
	(1) 歳入決算額	20
	(2) 歳出決算額	21
2	特別会計決算額	22
	(1) 歳入決算額	22
	(2) 歳出決算額	22

I 令和4年度教育委員会主要施策の成果の概要

〈徳島教育大綱（令和元年度～令和4年度）の基本目標〉

「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」

未知を切り拓く共通戦略

1 G I G Aスクール構想の展開 (総合教育センター)

(1) 広域的なサポート体制の充実

学校における1人1台端末を含むICTを利活用した教育活動を推進するため、県と市町村が連携した広域の「G I G Aスクール運営支援センター」を設置し、学校のネットワーク点検・応急対応や、学校及び家庭でのICTの利活用に関するヘルプデスク設置などサポート体制の充実に努めた。

(2) 優良事例の横展開等による教育D X加速

「徳島県G I G Aスクール構想」に基づき、整備された児童生徒1人1台端末と高速大容量の校内LANを余すことなく活用し、誰一人取り残すことのない、小中高一貫した「対面教育」と「オンライン教育」の新次元のハイブリッド型教育を推進し、個別最適化された「学び」を引き続き実現するとともに、各校における実践事例等の共有に努めた。

(3) 教育データを活用した学びの充実強化

1人1台端末により蓄積される学習データを活用し、児童生徒への適切な指導助言につなげるとともに、教職員の負担軽減を図るため、児童生徒の学習データをC B T (Computer Based Testing: コンピュータを使った学習) 形式で収集・分析するシステムを整備し、モデル校で実証を実施した。

2 働き方改革の推進

(教育政策課、教職員課、福利厚生課、学校教育課、体育健康安全課、総合教育センター)

(1) タイムマネジメントの徹底

県立学校及び全ての公立小中学校に導入されている出退勤管理システムにより、働き方を見える化し、より適切なタイムマネジメントにつなげるとともに、県立学校教職員一人一人が健康的に働くため、いつでも自分の健康診断結果等を閲覧できる環境を整備し、教職員の生活の質の向上に努めた。

(2) 教育DXによる業務改善の更なる推進

学校における働き方改革を推進するため、県内全ての公立小中学校に導入した「統合型校務支援システム」を含む「学校業務支援システム」の改善・運用に努めた。

また、児童生徒1人1台端末環境の更なる活用を図ることにより、学校現場におけるデジタル化を一層推進し、授業準備の省力化やペーパーレス化の促進など、教職員の業務負担軽減に努めた。

(3) 学びサポーター等の外部人材の積極的活用

一人一人の学習定着度に応じたきめ細やかな指導を図るため、授業準備の補助やTT（ティーム・ティーチング）指導、放課後等を活用した補習授業、オンライン授業や会議の際のICT機器活用補助等を行う学習指導員（学びサポーター）を引き続き配置した。

また、教員の業務支援を行い、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、教員の「働き方改革」の実現を図るため、市町村立小中学校における教員業務支援員のさらなる配置を支援した。

(4) 休日の部活動の段階的な地域移行

令和5年度以降における、休日の部活動の段階的な地域移行に向け、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むため、拠点校において実践研究を実施した。

3 ダイバーシティとくしまの実現

(学校教育課、特別支援教育課)

(1) 国府支援学校の新校舎工事着手

文部科学省が令和3年9月に公布した「特別支援学校の設置基準」に即応し、「安全で快適な教育環境」はもとより、多機能で自由度の高い「作業スペース」の整備や「文化・スポーツ活動」の核となる施設整備などを進めるとともに、これまで「みなと高等学園」が先駆的に進めてきた「地域一体型のキャリア教育」の実装などの充実に努めた。

(2) ふらっとKOKUFUとの協働による地域交流

「ダイバーシティとくしま」の先導モデルとなる「国府支援学校」の機能強化を図るため、「ふらっとKOKUFU」と連携した地域貢献活動や新たな農福連携による人材の育成を図るとともに、各特別支援学校における地域連携を強化し、地域を学習の場として活かし、SDGsの実現に向けた新たな取組を創出した。

(3) しらさぎ中学校における個別最適化した「多様な教育」環境の充実

学び直しを希望する人や外国籍の人などに対する義務教育の段階における普通教育に相当する機会を確保するため、県立の夜間中学「しらさぎ中学校」の運営と教育活動の充実に努めた。

重点施策

4 未来を創る教育の推進

(施設整備課、教育創生課、学校教育課、特別支援教育課、体育健康安全課、生涯学習課)

(1) 持続可能な社会を具現化する教育の推進

令和4年4月からの成年年齢引下げに伴い、高校生が在学中に「成年」となるため、主権者教育はもとより、「消費者教育先進県・徳島」のアドバンテージを活かして、消費者教育やエシカル消費の普及・啓発など、全国をリードする先駆的な取組をさらに充実するとともに、全国のエシカル消費推進に取り組む高校生等がその取組を発表する「エシカル甲子園」を開催するなど、新次元の消費者教育を推進した。

また、県立学校を地域の将来を担う人材育成の拠点とし「地域とともにある学校づくり」の実現のため、「学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)」の導入を推進するとともに、放課後等の多様な学びや体験活動など、地域人材の参画による学校教育活動支援や地域と学校が連携・協働した多様な取組により、地域総ぐるみの教育を実現し、地域の教育力向上や活性化に努めた。

(2) 「地域教育」による教育魅力化

将来の地域を支え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成するため、家庭や地域、経済団体等と連携した取組を推進するとともに、児童生徒のキャリアプランニング能力を育成する「キャリア教育」を展開した。

また、人口減少が急速に進む地域の高校において、その魅力化や活性化を通じて地域の新たな活力を創出するため、豊かな資源を活かした教育プログラムを確立し、地域を挙げて、地元はもとより県内外から生徒が集う学校づくりを進めた。

(3) 未来を守る「防災教育」の推進

南海トラフ巨大地震等の自然災害等に備え、地域防災の担い手となる人材を計画的に育成するため、児童生徒の発達段階に応じた防災教育の推進や、中・高校生及び教員の「防災士」資格取得の支援を推進するとともに、中学校、高校の「防災クラブ」が自主的な活動を行う体制づくりを進め、地域に根ざした積極的な防災活動を展開した。

また、地方創生の原動力となり、イノベーションを創造できる人材を育成するため、阿南光高等学校新野キャンパスにおいて、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発及び防災教育活動の取組を推進した。

さらに、児童生徒が安全・安心に学ぶことができる教育環境を確保するため、「県立学校施設長寿命化計画」に基づき、県立学校施設を長く賢く使えるよう整備した。

5 多様な学びの充実

(教育創生課、学校教育課、特別支援教育課、生涯学習課、総合教育センター)

(1) 真の知性を育む「深い学び」の実現

脱炭素社会の実現に向け、「持続可能な社会の創り手」を育成するため、環境負荷の低減や自然との共生に継続的に取り組む学校を、本県独自に「とくしまGXスクール」として認定するとともに、1人1台端末の活用や企業との連携により、児童生徒一人一人の意識改革と行動変容を促すなど、小学校段階から高等学校段階まで一貫した取組を推進した。

また、6次産業化を担う人材を育成するため、県立高校において、農工商連携による、徳島ならではの地域資源を活かした、生産・加工・販売が一体化した6次産業化教育を推進した。

さらに、子どもたちの発達段階等に応じた質の高い教育を実施するため、県立学校のICTを活用した授業環境の高度化を推進し、平時、有事を問わずオンライン教育にも対応できるICT環境を拡充した。

(2) 個性が輝き、一人一人が活躍できる「特別支援教育」の推進

特別な支援を必要とする児童生徒や医療的ケア児の増加に伴い、小・中学校の特別支援学級に関わる教員等の専門性を強化する支援体制の整備や、医療的ケア児一人一人の社会参加支援の充実を図るなど、特別支援教育の「専門性向上」や「サポート体制の構築」に努めた。

また、発達障がいを含めた全ての子どもたちが主体的に適切な行動を学ぶ本県独自の「ポジティブな行動支援」を軸として、学齢期を通じた切れ目ない「キャリア教育」を全県展開するとともに、早期から一人一人の適性を見いだし、伸ばすことで、将来の社会的・職業的自立を目指す教育やテレワークをはじめとする就労支援を推進した。

さらに、学校卒業後の学びや交流の機会促進のため、他部局や関係機関と連携し、障がいのある方の生涯学習活動を支援した。

(3) 世界に羽ばたく「グローバル人財」の育成

英語でのコミュニケーション能力や、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成するため、小学校3年生から高校生までの全ての英語学習段階において、英語で外国人と交流する体験活動の機会を提供した。

また、グローバル化が進展する社会を生き抜く「人財」を育成するため、4技能（聞く・読む・話す・書く）型の英語試験を活用し、生徒の英語力を的確に把握し、学習改善及び指導改善のPDCAサイクルを更に充実させ、社会に求められるバランスの取れた使える英語力の育成を目指した。

さらに、郷土徳島の伝統文化を担い、新たな価値を見いだしながら、その魅力を国内外へ向けて発信するグローバル人財の育成に努めた。

6 健全な心身の育成

(教育政策課、学校教育課、福利厚生課、人権教育課、体育健康安全課)

(1) 心身の成長サポート体制の強化

いじめや不登校、虐待など、子どもたちを取り巻く環境が複雑化・多様化する中、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関との連携による教育相談・支援体制の充実による生徒指導ネットワーク体制を構築し、子どもたちが安心して学べる環境を実現した。

また、学校生活での不安や悩みを抱えている児童生徒の心のケアを図るため、引き続きSNSを活用した双方向での相談窓口を開設するとともに、1人1台端末を活用したセルフケアやセルフチェックを行い、学校や家庭における人権教育・啓発と心のサポートに努めた。

さらに、肥満傾向の改善及び裸眼視力の低下を予防するため、小学校において、「子どもの屋外活動」を促進するとともに、生活習慣の振り返りに努めた。

(2) 部活動の充実・強化

部活動の質的な向上や活性化を図るとともに、教員の業務負担軽減につなげるため、専門的な知識・技能を有し、単独で指導や引率ができる部活動指導員の配置を拡充した。

また、生徒の文化部活動参加の機会を創出するため、専門性を有する外部指導者を活用し、複数校の生徒が一つの部活動に参加する「合同部活動」として、オンラインと対面とを組み合わせたハイブリッド型で実施した。

(3) 全国高校総体のレガシー創造

令和4年度「全国高等学校総合体育大会」において、大会の幹事県として51年ぶりに総合開会式を実施するとともに、本県開催の各競技種目別大会について、会場地市町、高体連等各種関係団体と連携し、新型コロナの感染状況にも応じた安心安全な運営を実施した。

また、全国高等学校総合体育大会や各種全国大会での上位入賞を目指すため、強化校を指定し、集中的に高校生の競技力向上を図るとともに、優秀な中学生を継続して育成するため、中・高の連携を密にし、合同練習会等を実施した。

II 主要事業の内容及び成果

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
1. G I G Aス쿨構想の展開	G I G Aス쿨運営支援センター整備事業	児童生徒1人1台端末を含むICTを利活用した教育活動を推進するため、県と市町村が連携した広域の「G I G Aス쿨運営支援センター」を設置し、サポート体制の強化を行った。 (46,516)
	徳島県G I G Aス쿨構想推進事業	G I G Aス쿨構想の実現に向けた取組を加速し、児童生徒1人1台端末を余すことなく活用した、児童生徒の可能性を最大限に引き出す「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、学校におけるICT利活用環境(授業支援ソフト・セキュリティソフト等)を導入した。 (118,446)
	デジタル社会形成を見据えた「とくしま学びのデータ活用」実証事業	本県独自の学力・学習状況調査のCBT化に向け、「徳島県学力調査システム」を構築し、児童生徒1人1台端末を活用したCBT形式での調査に関する実証を、モデル校を対象に実施した。 (9,900)
	教育関係ビッグデータ活用実証事業	学習活動の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、高校生が学習活動で習得した知識等を活用して生活に関連するビッグデータを分析し、課題の発見及び解決に向けた方策の考察、提案について競う「高校生ビッグデータ活用コンテスト」を開催した。 (85)
2. 働き方改革の推進	教職員の健康管理支援事業	県立学校教職員が自分の健康診断結果等を閲覧でき、健康診断結果等の集計等の業務を効率化するためのシステムの構築を完了した。 (5,610)
	学校業務支援システム構築・運営事業	教職員の働き方改革推進のため、学校の業務改善に大きな効果がある「統合型校務支援システム」を含む、県下統一した「学校業務支援システム」の運用を行った。 (20,900)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
2. 働き方改革の推進	新学習指導要領に対応した教科情報指導者研修	新学習指導要領では、全ての高等学校において「情報Ⅰ」が必修科目となり、これまで以上に指導體制の充実が求められていることから、担当教員の専門性の向上を目的として、集合形式とeラーニングを組み合わせた研修を実施した。 (144)
	学びの保障のための学校教育活動事業	公立学校において、児童生徒の学力向上に資する学校教育活動の一環として行われる授業や補充学習、教員の指導力向上支援等のため、退職教員や教員志望の学生等の地域人材を「学びサポーター」として学校に配置し、学びの支援に必要な人的体制の充実を図った。 (19,624)
	教員業務支援員配置促進事業	授業準備の補助や教員が行う事務作業の支援、教育活動に係る事務補助等、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備した。 (16,486)
	地域運動・文化部活動推進事業	中学校における休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けて、「地域人材の確保」や「費用負担の在り方の整理」、「運営団体の確保」などの課題解決を検証するため、実践研究を実施した。 また、文化部の休日の地域部活動を推進する拠点校を設け、「休日の部活動の段階的な地域移行」の課題について検証した。 (2,940)
3. ダイバーシティとくしまの実現	新時代対応！国府支援学校整備事業	文部科学省が策定した「特別支援学校の設置基準」に即応し、校舎の狭隘化・老朽化が進む「国府支援学校」をダイバーシティの先導モデルとするため、新校舎棟の実施設計や職員駐車場の造成等の施設整備を進めた。 (130,408)
	新時代「特別支援学校SDGs」創出事業	ふらっとKOKUFU等と連携し、小・中学部段階からの農業体験の機会確保やともに育てた県産野菜を活用したスイーツ等のレシピを考案し、県のキッチンカーとタイアップして地域の方に提供するとともに、文化的な体験学習、障がい者スポーツの実践、職業スキルを活かした四国霊場札所でのお接待活動等を実施した。 (7,201)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
3. ダイバーシティとくしまの実現	夜間中学設置推進事業	令和3年4月に全国初の県立夜間中学「徳島県立しらすぎ中学校」を開校し、年代や国籍が異なる入学者の学び直しをサポートするため、多様な学習内容を提供した。 また、令和5年度に向け、入学者募集や広報、入学説明会・相談会の開催を行うとともに、「中学校夜間学級協議会」で市町村や関係機関と連携を図り、入学者への支援の在り方等について協議した。 (1,262)
4. 未来を創る教育の推進	18歳！新成人への学びプログラム事業	主権者教育に関する高等学校及び特別支援学校高等部担当教員の指導力向上のための研修や、児童生徒に対する政治参加や社会参画への意識を高めるための大学教員や選挙管理委員会、県教育委員会指導主事等による出前講座等の実施により、主権者教育の一層の充実を図った。 また、高等学校等のリーダーが交流し、それぞれの活動について情報交換等をする「高校生リーダー・未来会議」を開催し、リーダーとしての資質向上を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けて積極的に関わっていく力の育成を図った。 (2,015)
	「エシカル甲子園」プロジェクト	次代を担う高校生等の、持続可能な社会の実現に向けた取組成果を発表する「エシカル甲子園2022」では、予選審査を経て本選審査に進んだ12校が、エシカル消費の大切さを全国に向けて発信した。 (9,262)
	コミュニティ・スクール推進事業	各県立学校を地域の将来を担う人材育成の拠点とするため、全ての県立学校においてコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域との連携の充実に向けた取組を支援した。 (1,929)
	新次元の消費者教育推進事業	自立した消費者の育成のために、多様な主体と連携・協働し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校における発達段階に応じた消費者教育や、持続可能な社会の実現に向けた「エシカル消費」教育を推進した。 (7,421)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
4. 未来を創る教育の推進	二地域居住を加速する「デュアルスクール」推進事業	<p>保護者の短期居住にあわせて子どもの学校間の行き来を容易にし、地方と都市の双方で教育を展開することにより、多面的な視点に立った考え方ができる人材を育成するため、「二地域居住」や「地方移住」の促進にもつなげる「デュアルスクール」を推進し、今年度は12家族、13件の「デュアルスクール」を実施した。</p> <p>また、「GOOD DESIGN AWARD 2022」において、5,715件の審査対象の中から、「グッドデザイン・ベスト100」に選ばれた。さらに、その中から20件の経済産業大臣賞にあたる「グッドデザイン金賞」を受賞した。</p> <p>(6,511)</p>
	高校生の社会参画力育成事業	<p>「鳴門市のまちづくりを考える」をテーマとして、実践研究校である鳴門高等学校、鳴門渦潮高等学校の生徒が、ワークショップ等を通して地域の課題について多角的に調査・研究し、課題解決型の学習プログラムの開発と実践により、他者と協働して、自立した主体として、積極的に社会に参画しようとする意欲や態度の育成を図った。</p> <p>(634)</p>
	人口減少社会に対応した小中一貫教育推進事業	<p>過疎・少子化の進行により小規模化が進む中、学校を存続させ、かつ教育の質を保障するために、「チェーンスクール」及び「パッケージスクール」という2つの学校教育のかたち（徳島モデル）を県下全域に周知し、普及・推進を図った。</p> <p>(3,122)</p>
	地域と学校の連携・協働強化事業	<p>地域と学校が連携・協働して、子どもたちの学びや成長を支えるため、放課後や週末等を安全・安心に過ごし、学習・スポーツ・芸術・文化等の多様な学びや体験活動ができるよう、幅広い地域住民等の参画を得て市町村が実施する「放課後子供教室」のほか、中学生への学習を支援する「地域未来塾」、登下校の見守り・学校の環境整備をはじめとした学校への支援体制である「地域学校協働本部」の活動を推進した。</p> <p>(41,763)</p>

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
4. 未来を創る教育の推進	未来へつなぐ「キャリア教育」推進プロジェクト	家庭・地域・経済団体・企業等の多様な主体と積極的に連携し、子どもたちが「ふるさととくしま」の未来を切り拓き、DXを見据えた「持続可能な社会」を創造する力を身に付けるとともに、自らのキャリアプランニング能力を高めることができるよう、「徳島ならではの」キャリア教育を展開した。 (5,637)
	ふるさと創生拠点ハイスクール推進事業	人口減少が急速に進む地域にある海部高等学校において、魅力化や活性化を通じて地域の新たな活力の創出と「とくしま回帰」を促進するため、豊かな地域資源を活かした教育プログラムやICTを活用したグローバル教育を展開するとともに、同校の魅力を効果的に発信した。 また、県外からの入学生を増加させるため、積極的に広報を実施した。 (43,449)
	スーパーオンリーワンハイスクール事業	高校生自らが地域の課題解決に向けた活動を通じて、魅力ある学校づくりや地域を活性化させることを目的に、実施校の取組を支援するとともに、生徒活動発表会の開催や発表要旨集を発刊して、その成果を広報した。 (8,308)
	世代を超えて開かれつながる社会教育推進事業	持続可能な地域づくりのための若手人材育成と、高校生の多様なキャリア形成や実践型課題解決力などの資質向上のため、学校の枠を超えて集まった生徒がチームとなり、地域で活動するNPO等と連携協働しながら、ファシリテーション・映像制作・資金調達などの手法を学び、地域の魅力発信イベントやその経費にあてるためのクラウドファンディングを実施した。 (2,390)
	高大・地域連携イノベーション展開事業	高大連携や地域・民間連携の拠点となる阿南光高等学校新野キャンパスにおいて、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組むとともに、高校・大学・地域住民が連携した防災教育活動を展開してイノベーションを創出できる人材育成を行った。 (3,266)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
4. 未来を創る教育の推進	実践的防災・安全教育総合推進事業	学校における安全教育の充実と推進を図るため、国費事業（学校安全総合支援事業、学校安全教室推進事業）を活用し、災害安全、交通安全、生活安全に関する実践研究・研修に取り組んだ。 (2,454)
	ふるさと大好き！地域防災推進事業	全ての高等学校に「防災クラブ」を設置し、中学校にも設置を広げ、地域と連携した防災ボランティア活動等に取り組むなど、将来の防災の担い手の育成を図った。 (1,843)
	チャレンジ防災人材育成推進事業	小学校高学年を対象にした防災学習プログラム「あわっ子防災チャレンジ」を推進し、発達段階に応じた実践的な防災教育の充実を図った。地域防災の担い手となる人材を計画的に育成するため、「学校防災人材育成講座」を開催し、「中高校生防災士」を養成するとともに、学校防災の要であり防災教育に係る指導的立場を担う「教員防災士」を養成した。 (6,047)
	県立学校施設長寿命化推進事業	長寿命化計画に基づき、老朽化している建物を改修し、児童生徒が、安全・安心に学ぶことのできる教育環境の整備を行った。 (1,311,566)
5. 多様な学びの充実	とくしまGXスクール推進事業	脱炭素社会実現に向け、「持続可能な社会の創り手」を育成するため、環境負荷の低減や自然との共生等、従来の「新 学校版環境ISO」の取組に加え、環境とSDGsの関わりを意識した取組を実践する学校を、本県独自に「とくしまGXスクール」として認定し、児童生徒一人一人の意識改革と行動変容を促すなど、小学校段階から高等学校段階まで一貫した取組を推進した。 (2,330)
	6次産業化実践教育ステップアップ事業	6次産業化を担う人材を育成するため、農工商の学校間及び産業界等との連携による、徳島ならではの地域資源を生かした商品開発を通して、生産・加工・販売が一体化した6次産業化教育を展開した。 (1,394)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
5. 多様な学びの充実	授業環境高度化推進事業	オンラインでの外部人材による専門性の高い指導や、進学・就職に係る面接や就業体験、感染症対策など、県立学校において平時・有事を問わず日常的にICTを活用した教育活動を推進するための環境を整備した。 (36,190)
	ビジネス創造人材育成事業	徳島商業高等学校において、地域の活性化及び地方創生を担う人材を育成するため、専門科目において外部人材を活用した授業を実施するとともに、グラフィックデザインやVR映像作成など、魅力ある高度な商業教育を展開した。 (1,381)
	新時代のハイブリッド型「学び」推進プロジェクト	高等学校での「探究」活動を中心とした「深い学び」の実現によって、将来、持続可能な社会の創り手として各分野を牽引していく人材を育成するため、N(ext)G(eneration) L(eader) 育成プログラムでは、NGLサミットなど、学校の枠を超えて切磋琢磨する機会を設けるとともに、サイエンス・スペシャリスト育成プログラムでは、ハイレベルサイエンス講習会など、将来世界レベルの研究に取り組む科学者の育成を目指して事業を推進した。 (5,392)
	特別支援教育「地域まるごと専門性向上」事業	特別支援学校における「医療的ケア」について理解を深め、関係機関が連携・協力しながら、安全で安心な医療的ケアを実施することを目的として、リーフレットを作成・配付した。 特別支援学級担任者研修会や特別支援教育コーディネーター研修など、特別支援教育に関わる教員の専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能を発揮し、幼稚園、小・中・高等学校に対する巡回相談員による指導を行った。 (3,937)
	発達障がい「つながる・ひろがる・はばたく」充実事業	発達障がいのある児童生徒等への切れ目ない支援のため、県内全ての幼稚園、こども園、小学校、中学校において、本県独自の「ポジティブな行動支援」の拡充を図るとともに、社会的・職業的自立に向け、一貫したキャリア教育の充実を図った。 (5,873)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
5. 多様な学びの充実	特別支援学校「エシカルチャレンジ」事業	年間通じて、特別支援学校の児童生徒がエシカル作品作りを行い、エシカル作品を地域の方へ提供するなど、啓発活動を展開した。 また、地元企業等と連携することにより、地産地消促進の取組を強化した。 (1,842)
	障がい者の生涯学習支援事業	県立総合大学校「まなびーあ徳島」に「障がい者の学びコース」を開設し、サテライト校である県立障がい者交流プラザにおいてスポーツや文化・芸術、生涯学習等に関する講座を実施した。 (1,358)
	T o k u s h i m a 世界への扉プロジェクト	英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成など、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、広く社会へ目を向け国際協調の精神を育むため、小・中・高等学校の発達段階に応じた英語体験プログラムにより、児童生徒が世界を体感する場を提供した。 (7,639)
	世界スタンダード英語4技能育成事業	英語4技能育成を目的に、中学校2年生を対象として、CAN-DOリストに沿った授業実践を行い、客観的な指標による4技能型のテスト（英検I B A R L W S）を実施した。 また、試験結果の活用により、生徒の英語力把握と指導のP D C Aサイクルを促進し、その成果を県内全中学校に共有した。 (7,618)
	徳島グローバルスタンダード人材育成事業	社会の多様な場面で急速にグローバル化が進む中、本県の成長を牽引する人材を育成するため、友好協定を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州や経済交流が活発化するアジア諸地域との間で、オンライン等を活用して学校間交流促進による教育環境の国際化を図り、世界基準（グローバルスタンダード）での教育展開を行った。 (1,351)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
5. 多様な学びの充実	あわっ子グローバル文化芸術事業	徳島の伝統文化を担い、その魅力を県内外に発信する「人財」を育み、中学生の文化芸術発信力を高めるため、県内全公立中学校1・2年生を対象とした「あわ文化検定」を実施するとともに、「あわっ子文化大使」と「あわっ子文化大使サポーター」のコミュニケーション能力の育成を推進した。 (2,492)
6. 健全な心身の育成	徳島あわっ子“愛♡藍”ネットワーク事業	不登校、いじめや暴力行為などの児童生徒の問題行動等の未然防止や早期発見のため、スクールカウンセラーを各学校等に配置するとともに、スクールソーシャルワーカーを市町村教育委員会に配置した。 また、学校問題解決支援チーム派遣として、より高度で専門的な知識を有するスクールプロフェッサー（医師、臨床心理士、社会福祉士等）を学校等へ派遣するとともに、スクールロイヤー活用事業として法律の専門家である弁護士が学校をサポートするなど、教育相談体制の充実を図った。 (131,069)
	1人1台端末を活用した児童生徒の心のサポート事業	全ての児童生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、1人1台端末を活用し、「動画コンテンツ」や「心のケア支援システム」を通じて、児童生徒の心の状態の早期把握を図り、心のケアの一層の支援につなげた。 (3,607)
	元気なあわっ子！外遊び推奨事業	肥満予防と生活習慣改善について、教職員及び保護者等が現状を把握し、生活習慣改善のきっかけとなるように専門家を活用した啓発を行った。 また、肥満予防や視力低下の予防のために外遊びを推進するための環境を整備した。 (1,678)
	元気なあわっ子！応援事業	本県の子どもたちの健康課題である「肥満予防」「生活習慣の改善」を図るため、全ての公立学校で「生活習慣改善プロジェクト」を実施し、各学校の実情にあった取組を推進した。 また、専門家を派遣し、学校、家庭、地域が連携して児童生徒の健康課題を解決するための体制づくりと取組の支援及び専門家と連携しての研修等を実施した。 (366)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
6. 健全な心身の育成	学校における感染症対策事業	学校における児童生徒の安心安全な学習環境を確保しつつ、教育活動を着実に継続するため、学校の感染症対策や、児童生徒の学びの保障をするための取組に必要な経費を支援した。 (103,634)
	生徒・教職員の感染拡大防止対策強化事業	学校への新型コロナウイルスの持ち込みを防止することにより、安定的な教育活動を行えるよう、幼・小・中・高及び特別支援学校の教職員を対象に集中検査を実施した。 また、学校教育活動等による新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、部活動の大会や就業体験参加、就職・進学で県外受験する生徒及び教職員等に対し、PCR検査及び抗原定性検査を実施した。 (64,179)
	SNS活用「生徒の心の相談」事業	いじめ問題をはじめとする様々な悩みを抱える生徒に対して、SNSを活用した相談窓口の開設により、相談に係る選択肢の多様化を図り、生徒が抱える悩みに向き合い、問題の深刻化を未然に防止するとともに、より有効な教育相談体制の構築に努めた。 (19,784)
	部活動指導員配置促進事業	学校教育活動の一層の充実及び教員の働き方改革の実現を図るため、中学校に部活動指導員を配置した。 (18,122)
	新次元の文化部活動推進事業	複数の学校が集まり、合同で部活動を行い、専門性を有する外部講師に指導を受けることにより、生徒のスキルアップや専門的技術の習得につながるよう支援した。 (591)
	次代へ継承・文化芸術創造事業	本県の文化芸術力を全国に発信するために、平成27年に文化芸術リーディングハイスクールに指定した名西高等学校を文化芸術の拠点校として育成するとともに、城北高等学校人形会館を活用し、阿波人形浄瑠璃の伝承に取り組んだ。 (22,059)

(単位：千円)

項 目	事 業 名	事 業 内 容 及 び 成 果
6. 健全な心身の育成	令和4年度全国高等学校総合体育大会推進事業	全国高等学校総体が令和4年7月23日から8月23日までの間、四国4県と和歌山県で開催され、大会幹事県として徳島県実行委員会を運営し、7月28日には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を賜り、アスティとくしまで総合開会式を開催、県内において6種目の競技種目別大会を開催した。 (433,921)
	NEO徳島トップスポーツ校強化事業	本県高校スポーツの競技力向上と普及・振興を図り、全国大会で入賞できる部活動を育成するため、強化指定校・育成指定校の2つのカテゴリーに分けて指定し、それぞれの特徴に応じた活動を支援した。 (19,810)
	渦潮スポーツアカデミー推進事業	未来のトップアスリートを徳島から発掘・育成・強化するため、鳴門渦潮高等学校をスポーツの拠点校として、県内アスリートの体力を科学的に測定・分析し、専門家のサポートを行ったほか、専攻実技8競技への強化費支援、部活動指導者へのスキルアップ研修等を実施した。 (8,617)
	中学校トップスポーツ競技育成事業	県中学校スポーツの競技力の向上と普及・振興を図り、全国大会で活躍できる競技者を育成するため、中学校体育連盟競技専門部の中からトップスポーツ競技を指定し、中学校体育連盟競技専門部に支援した。 (5,076)
	あわスポーツ・ブルーミング戦略事業	長期的な展望に基づき、競技団体と連携し、選手の育成・強化を図るため、県高体連に対しトップスポーツ校以外への強化費助成、県中体連に対し四国・全国総体への強化費助成、県小体連に対し実技講習会への助成を実施した。 (7,455)

Ⅲ 歳入歳出決算額

1 一般会計決算額

(1) 歳入決算額

(単位：円)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予算現額と 収入済額の比較
教育政策課	713,502,000	412,064,287	412,043,274	0	21,013	△ 301,458,726
コンプライアンス推進室	0	0	0	0	0	0
施設整備課	587,144,000	461,972,552	461,972,552	0	0	△ 125,171,448
教育創生課	26,858,000	24,415,284	24,415,284	0	0	△ 2,442,716
教職員課	10,766,423,000	10,778,734,862	10,778,734,862	0	0	12,311,862
福利厚生課	81,847,000	69,085,129	69,085,129	0	0	△ 12,761,871
学校教育課	429,548,004	211,118,894	211,118,894	0	0	△ 218,429,110
特別支援教育課	105,173,000	95,774,796	95,774,796	0	0	△ 9,398,204
人権教育課	76,925,000	362,027,942	76,690,789	128,400	285,208,753	△ 234,211
体育健康安全課	246,725,000	114,279,192	114,279,192	0	0	△ 132,445,808
生涯学習課	3,463,534,000	3,455,096,675	3,455,096,675	0	0	△ 8,437,325
計	16,497,679,004	15,984,569,613	15,699,211,447	128,400	285,229,766	△ 798,467,557

(2) 歳出決算額

(単位：円)

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	予 算 現 額 と 支 出 済 額 の 比 較
教 育 政 策 課	2,466,588,000	2,138,370,406	204,300,000	123,917,594	328,217,594
コンプライアンス推進室	1,043,000	861,233	0	181,767	181,767
施 設 整 備 課	4,998,400,000	2,132,429,193	2,594,143,000	271,827,807	2,865,970,807
教 育 創 生 課	106,852,000	80,907,988	19,801,000	6,143,012	25,944,012
教 職 員 課	58,694,838,000	58,268,704,052	0	426,133,948	426,133,948
福 利 厚 生 課	7,906,011,000	7,569,496,991	0	336,514,009	336,514,009
学 校 教 育 課	1,317,367,004	1,058,402,599	77,495,000	181,469,405	258,964,405
特 別 支 援 教 育 課	573,366,000	408,288,122	106,984,000	58,093,878	165,077,878
人 権 教 育 課	229,334,000	216,895,104	5,200,000	7,238,896	12,438,896
体 育 健 康 安 全 課	811,457,000	643,233,561	10,140,000	158,083,439	168,223,439
生 涯 学 習 課	1,933,550,000	1,852,770,848	44,676,000	36,103,152	80,779,152
計	79,038,806,004	74,370,360,097	3,062,739,000	1,605,706,907	4,668,445,907

2 特別会計決算額

(1) 歳入決算額

(単位：円)

区 分	会 計 名	予算現額	調 定 額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	予 算 現 額 と 収 入 済 額 と の 比 較
生涯学習課	奨学金貸付金 特別会計	160,156,000	692,383,146	603,708,331	0	88,674,815	443,552,331
計		160,156,000	692,383,146	603,708,331	0	88,674,815	443,552,331

(2) 歳出決算額

(単位：円)

区 分	会 計 名	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不 用 額	予 算 現 額 と 支 出 済 額 と の 比 較
施設整備課	県有林県行造林 事業特別会計	250,000	249,125	0	875	875
生涯学習課	奨学金貸付金 特別会計	160,156,000	158,262,497	0	1,893,503	1,893,503
計		160,406,000	158,511,622	0	1,894,378	1,894,378